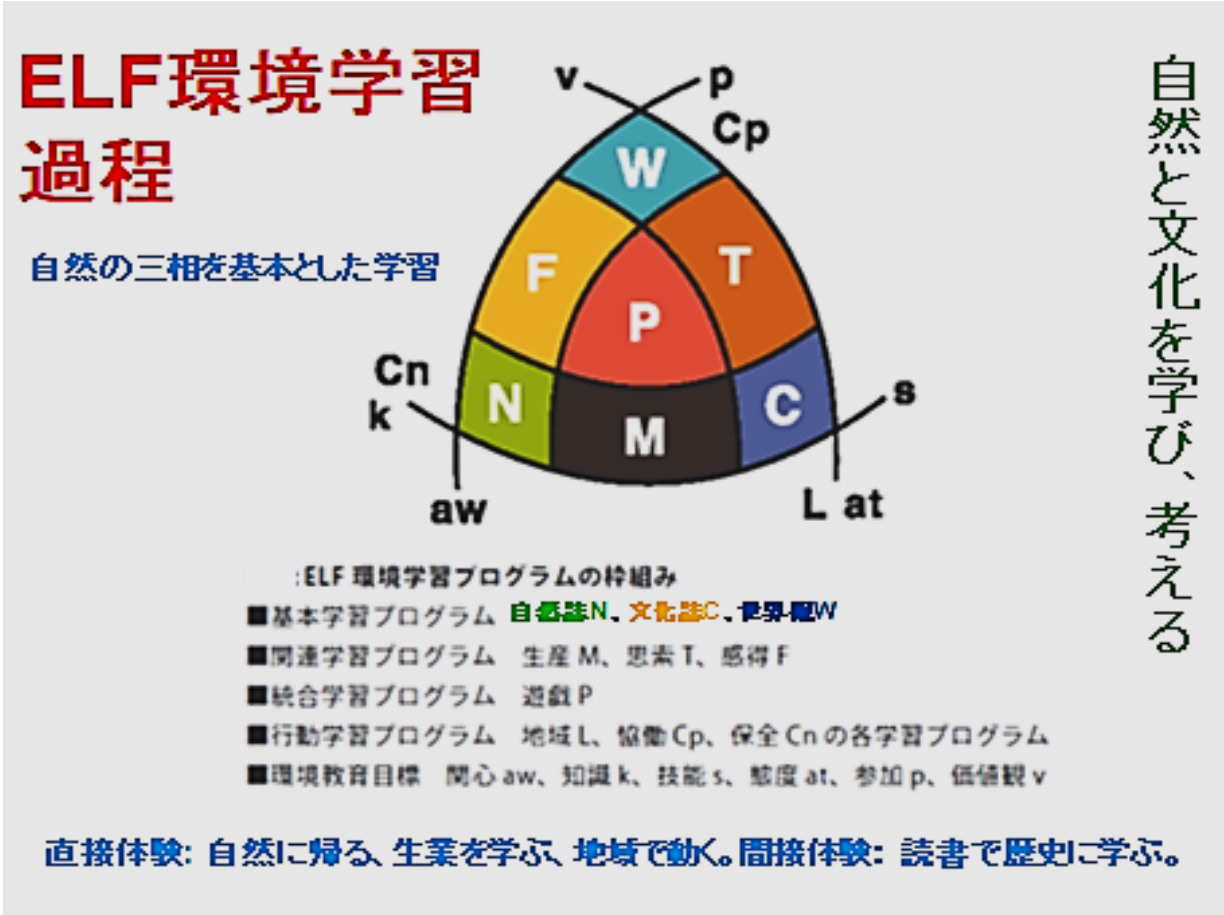


環境学習過程ELFの変遷



考え続けてきた。

自然とは何か、
環境とは何か、
どのように学ぶのか、
どのように伝えるのか

図1 自然接触と発達段階

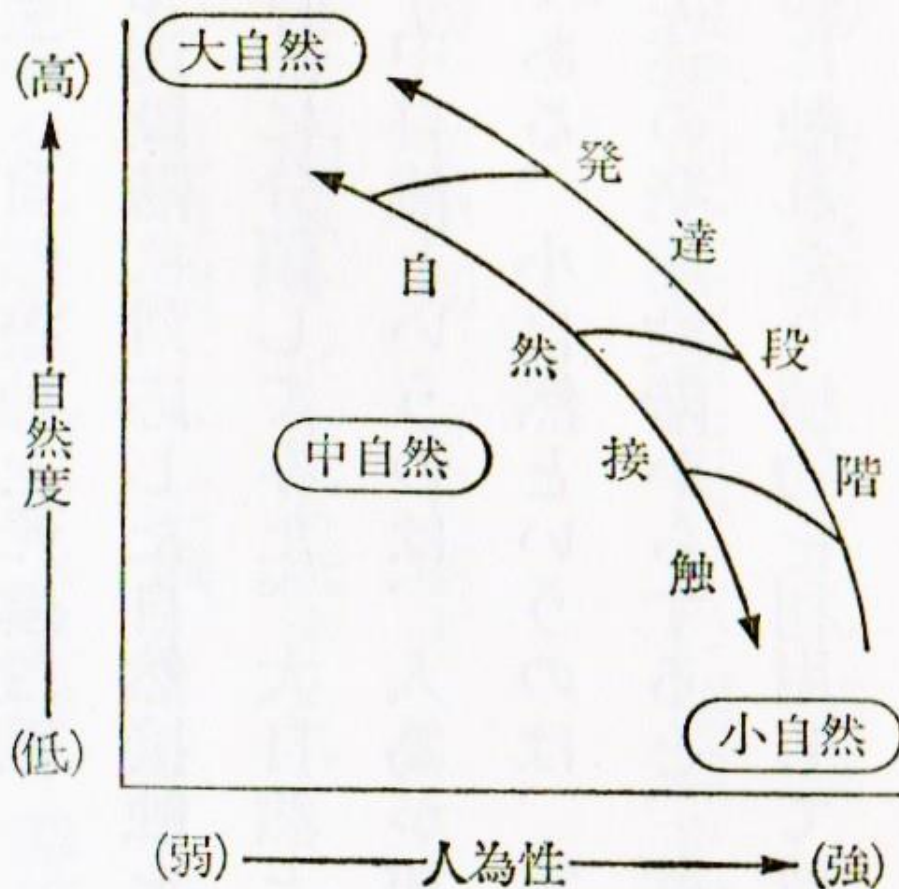
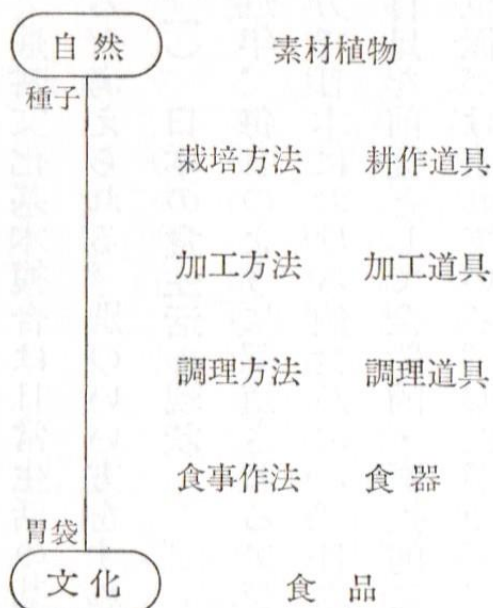


図3 農耕文化基本複合



* 中尾佐助（1966）、栽培植物と農耕の起源、岩波書店。

* 中尾佐助（1967）、農業起源論、今西錦司博士還暦記念論文集、自然－生態学的研究、森下正明。吉良竜夫編、中央公論社。

中込卓男・木俣美樹男（1986）、自然体験学習の実践－方法論とプログラム、加藤一郎監修、教育と農村－どう進めるか体験学習、地球社。

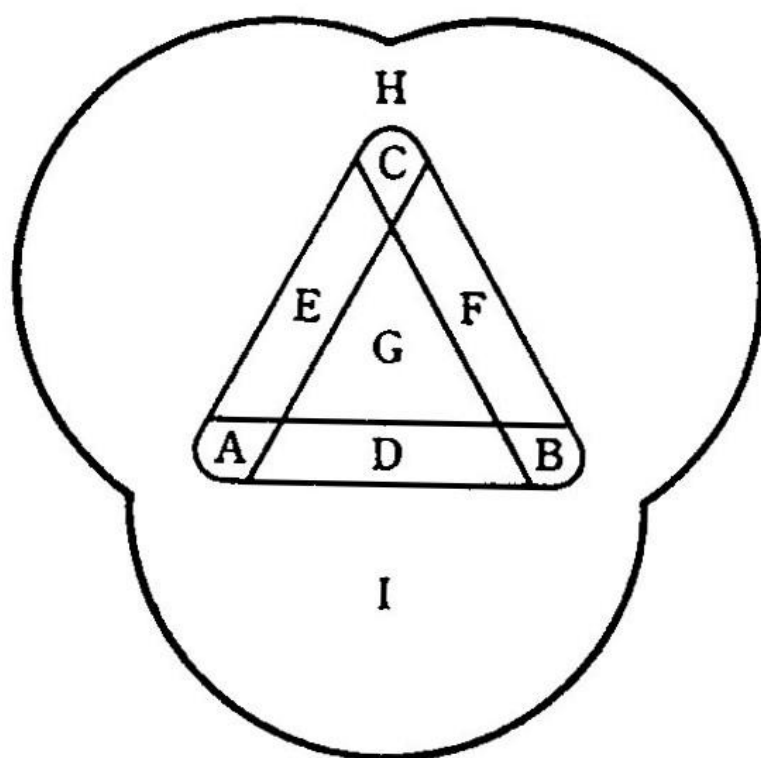


図 5-1 環境教育プログラムのカライダスコップ方式

* ユング, C.G. (1995) 林道義訳 (1991)、個性化とマンダラ、みすず書房。

* 岩田慶治 (1979)、カミの人類学—不思議の場所をめぐって、講談社。

岩田慶治 (1986)、人間、遊び、自然—東南アジア世界の背景、日本放送出版協会。

木俣美樹男 (1992)、環境学習プログラムとその実践、北野日出男・木俣美樹男共編、環境教育概論、培風館。

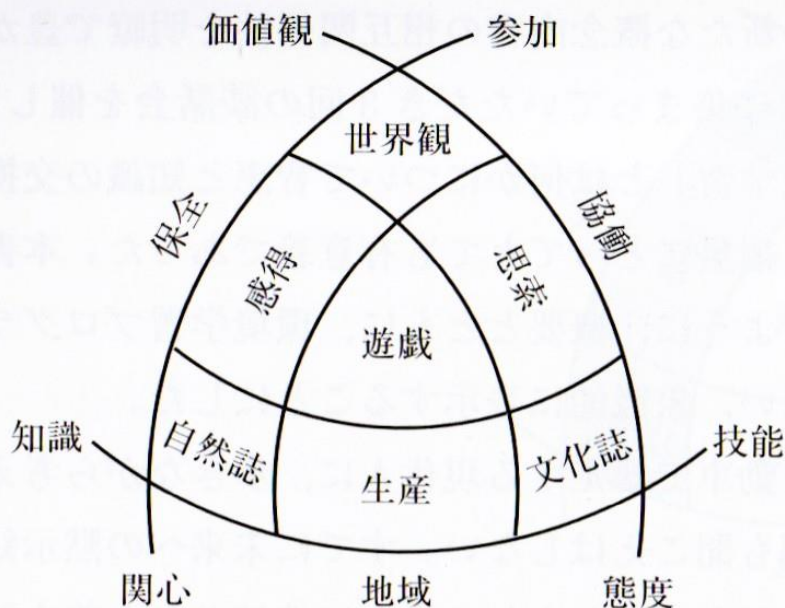


図0-1 環境学習プログラムの全体的枠組み作業モデル

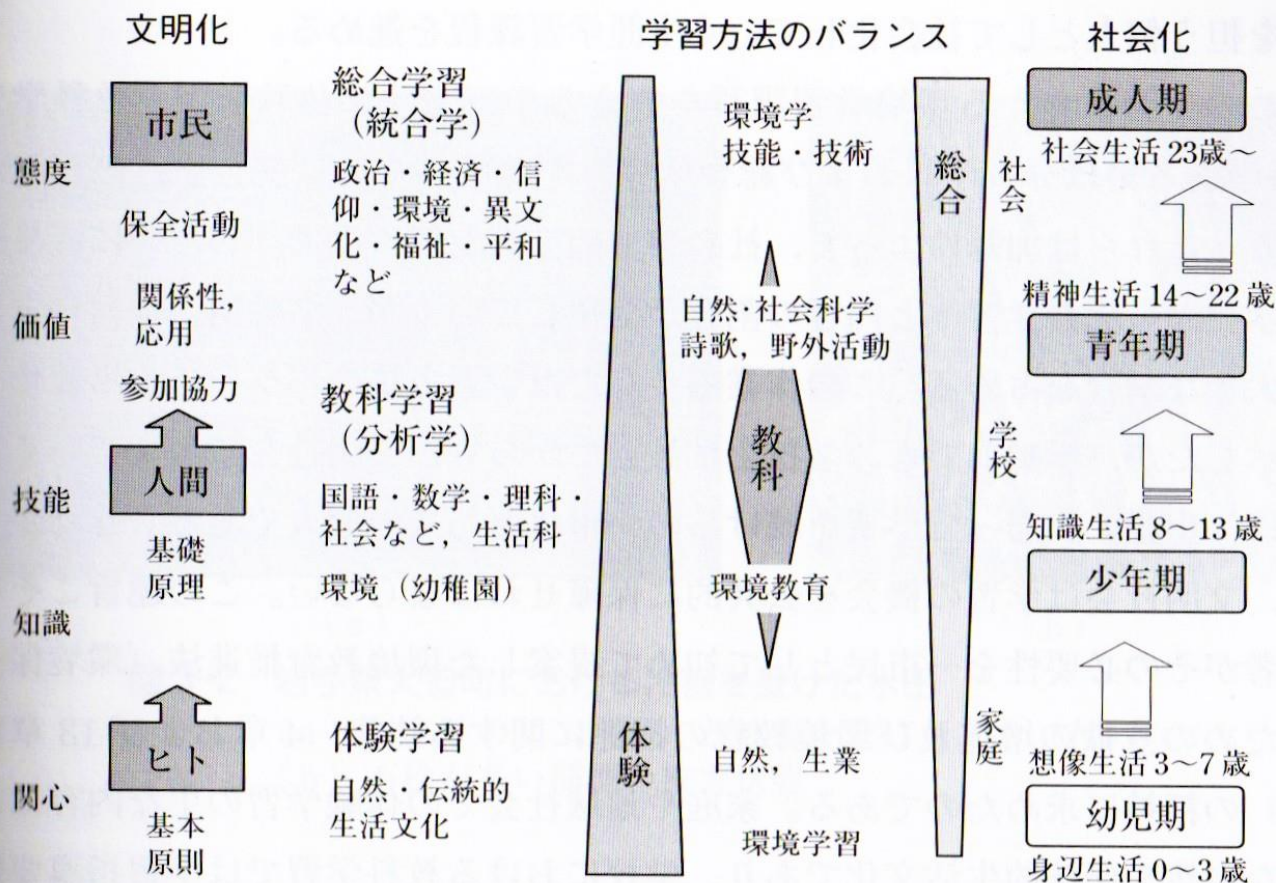
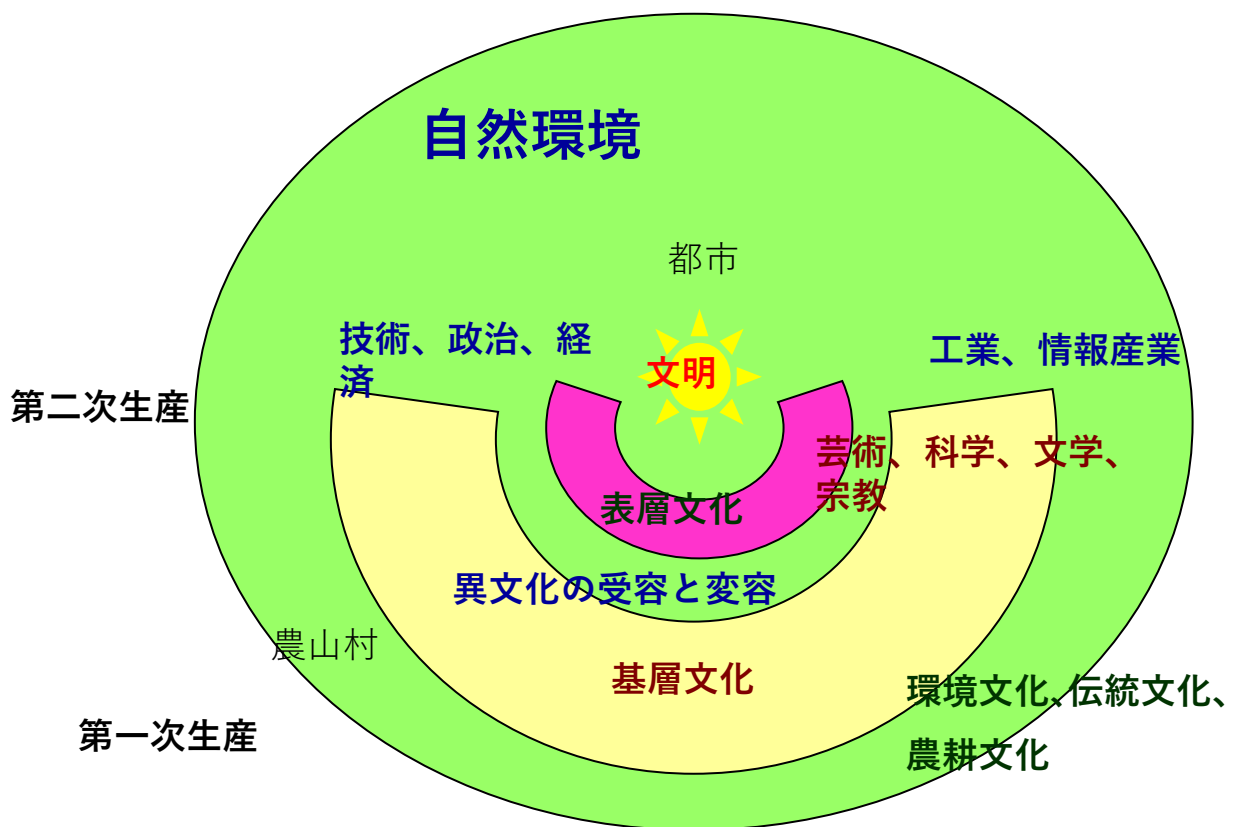


図3-1 持続可能な社会のための生涯にわたる環境学習課程

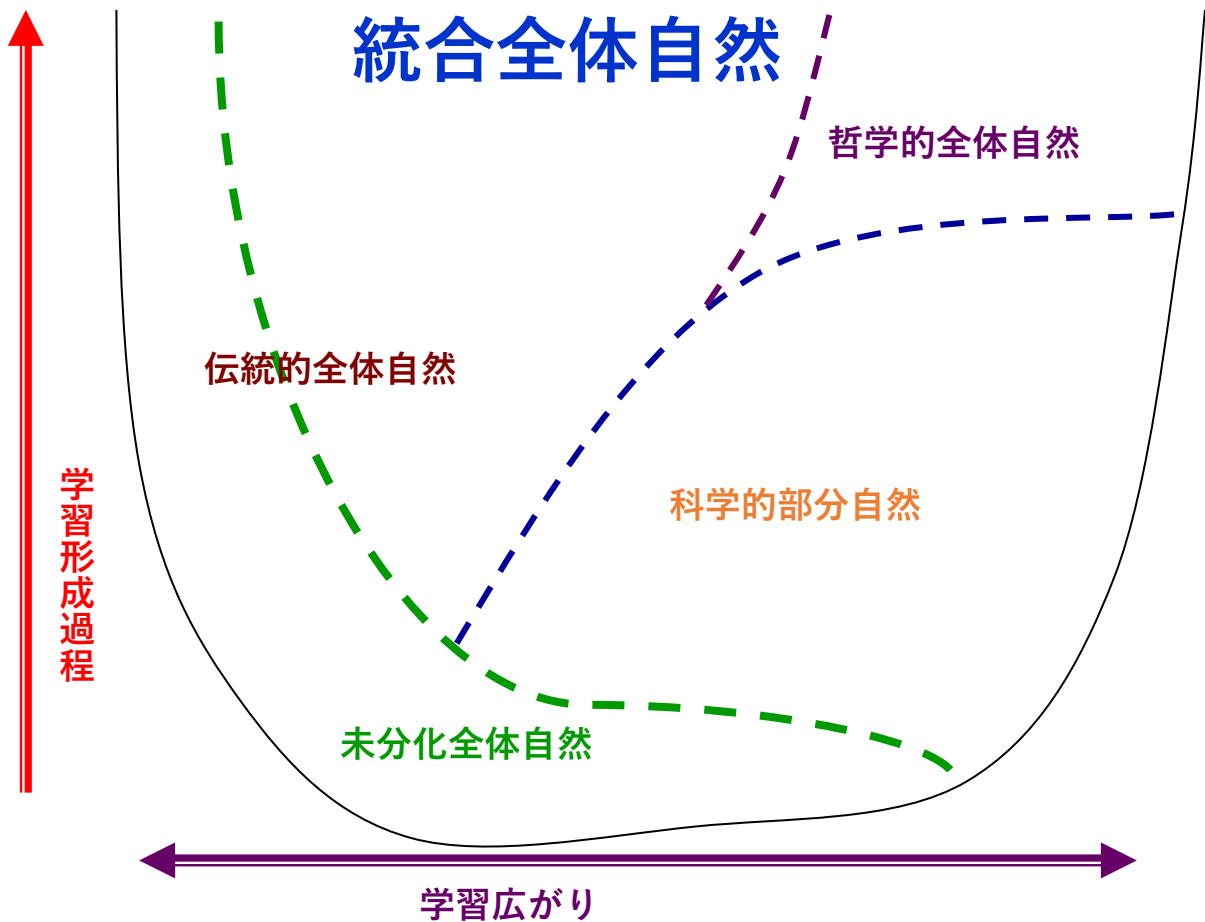
木俣美樹男 (2005)、木俣美樹男・藤村コノエ共編、持続可能な社会のための環境学習、知恵の環を探して、培風館。

現代文明を支える文化の入れ子構造



* Shiva, Vandana (1993), *Monocultures of the Mind*, Third World Network, Malaysia

自然認識、自然観の形成過程



* 今西錦司（1984）、自然学の提唱、講談社。

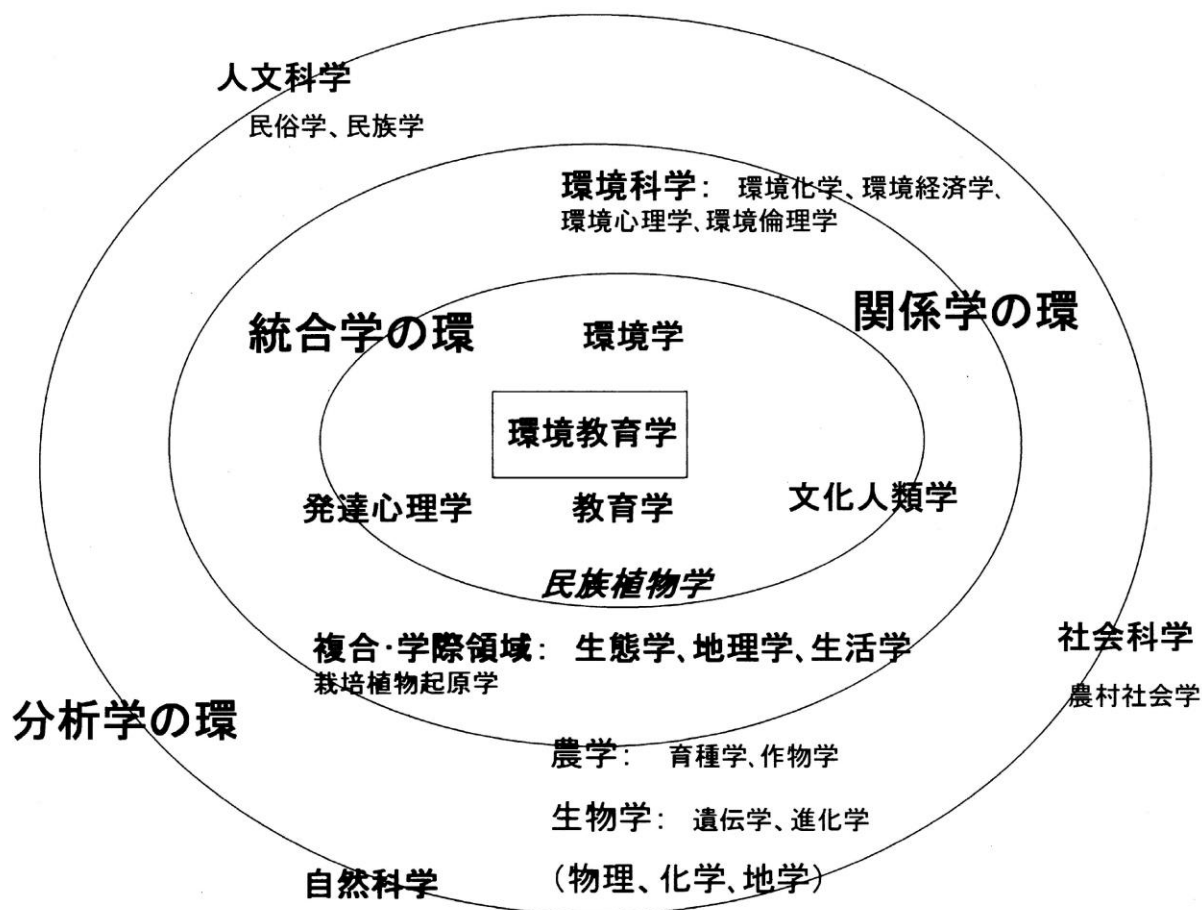
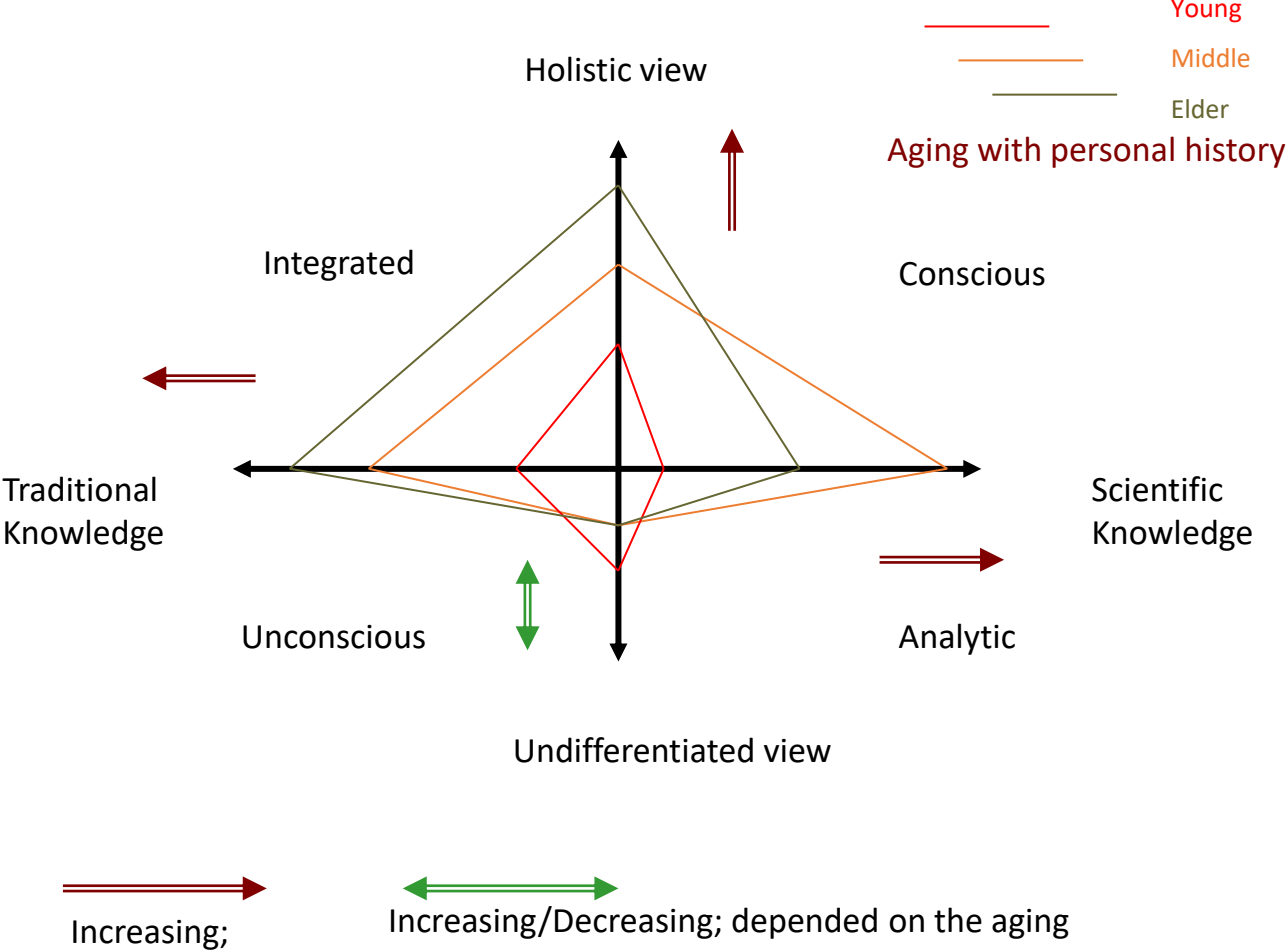


図5 環境教育学の位置づけ

A Knowledge Diamond of Nature View



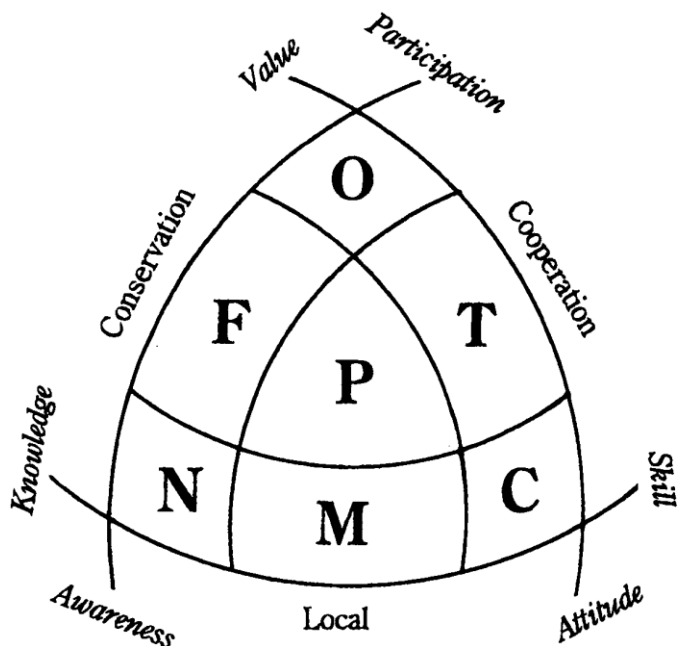


図1 カライダスコップ方式：環境学習プログラムの枠組み
 基本学習プログラム：自然誌 N、文化誌 C、世界観 O。
 連関学習プログラム：生産 M、思索 T、感得 F。
 統合学習プログラム：遊戯 P。
 行動プログラム：地域、協働、保全の各学習プログラム。
 環境教育目標：関心、知識、技能、態度、参加、価値観。

伝統地域⇒ 近代学校制度⇒ 現代国際化⇒ 未来文明

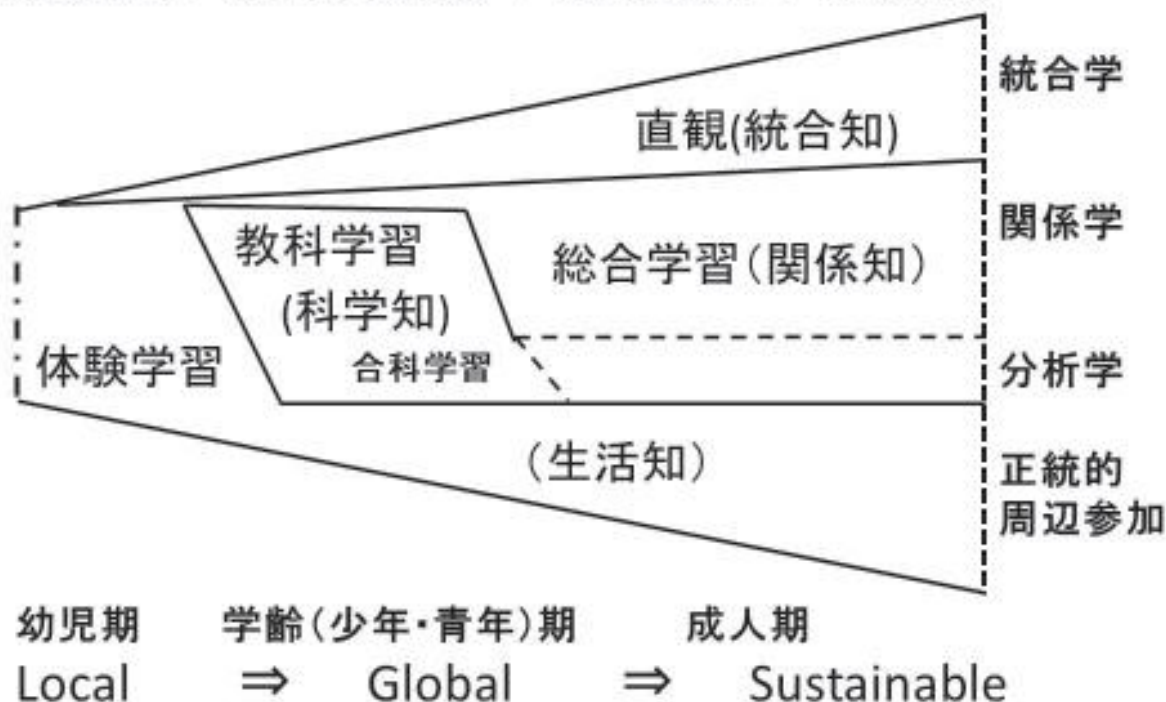
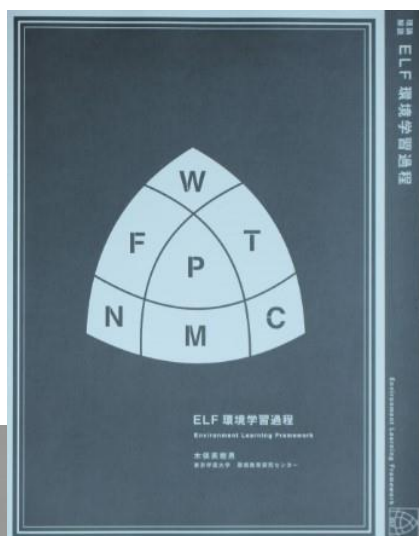
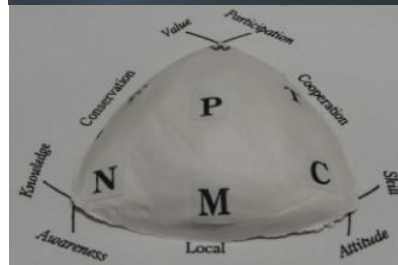
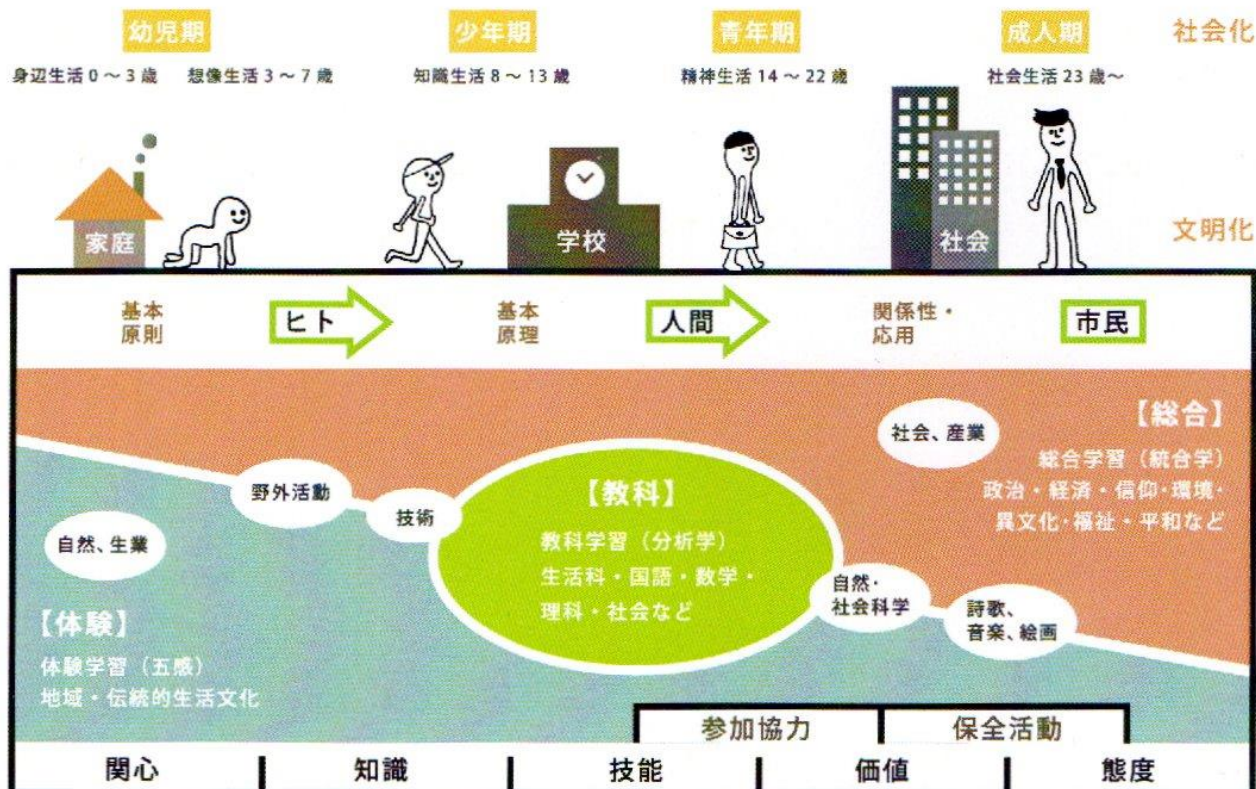


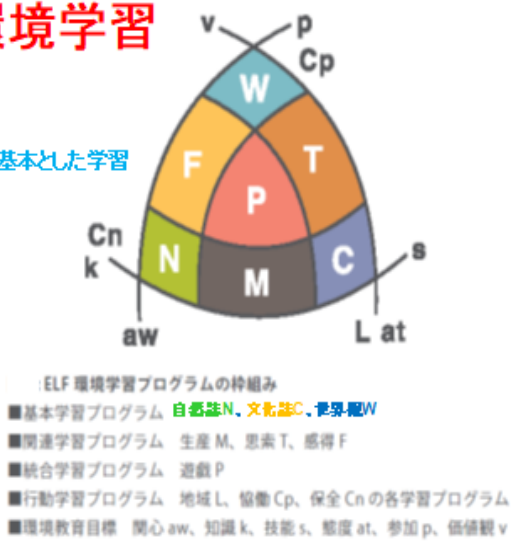
図1 人類の文明社会の複雑化に適応する生涯にわたる環境学習過程の構造（作業モデル6）。

[illegible]

ELF環境学習過程

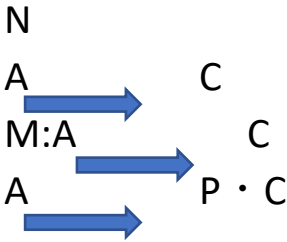
ELF環境学習過程

自然の三相を基本とした学習



自然と文化を学び、考える

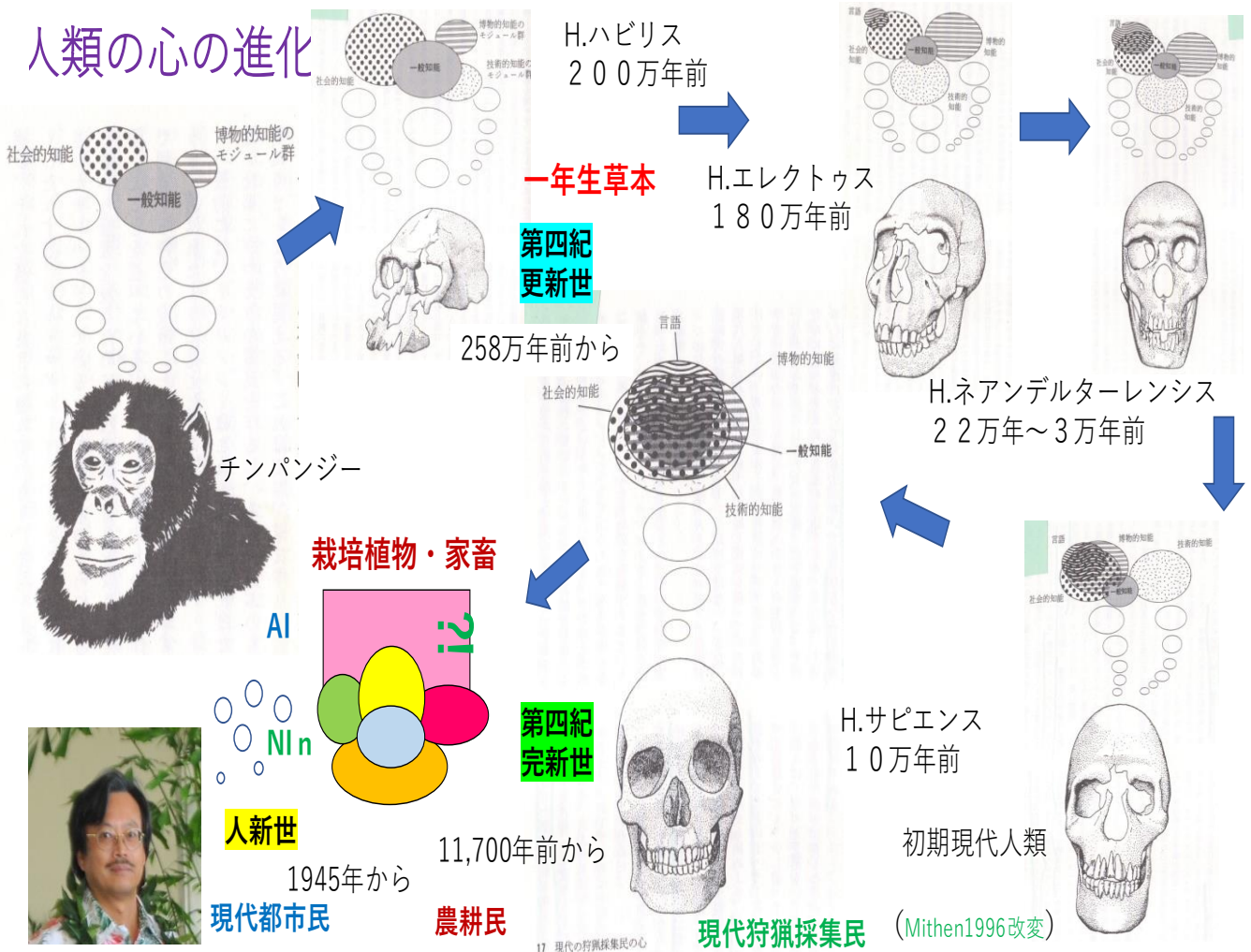
- 学習プログラムとの組み合わせと流動性
= 学習プログラムとの組み合わせと流動性



- 万華鏡を覗くように、回し、結合する
= 万華鏡を覗くように、回し、結合する

直接体験: 自然に帰る、生業を学ぶ、地域で動く。間接体験: 読書で歴史に学ぶ。

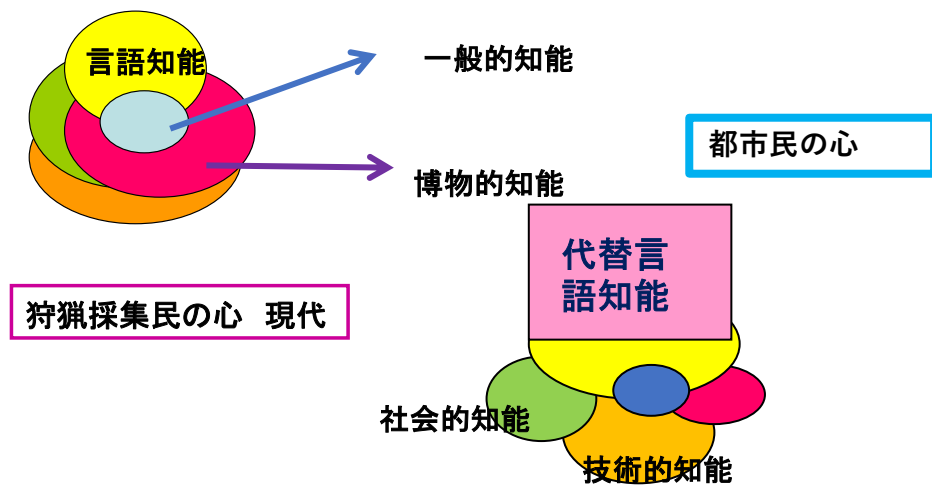
人類の心の進化



* Mithen, S. 1996. The Prehistory of the Mind – The cognitive origins of art, religion and science, Thames and Hadson Ltd., London, UK.

心の構造、知能の委縮

心の構造 狩猟採集民と都市民の比較



統合されていた知能群が分離していく

言語は情報化されて、AI人工知能に代替される

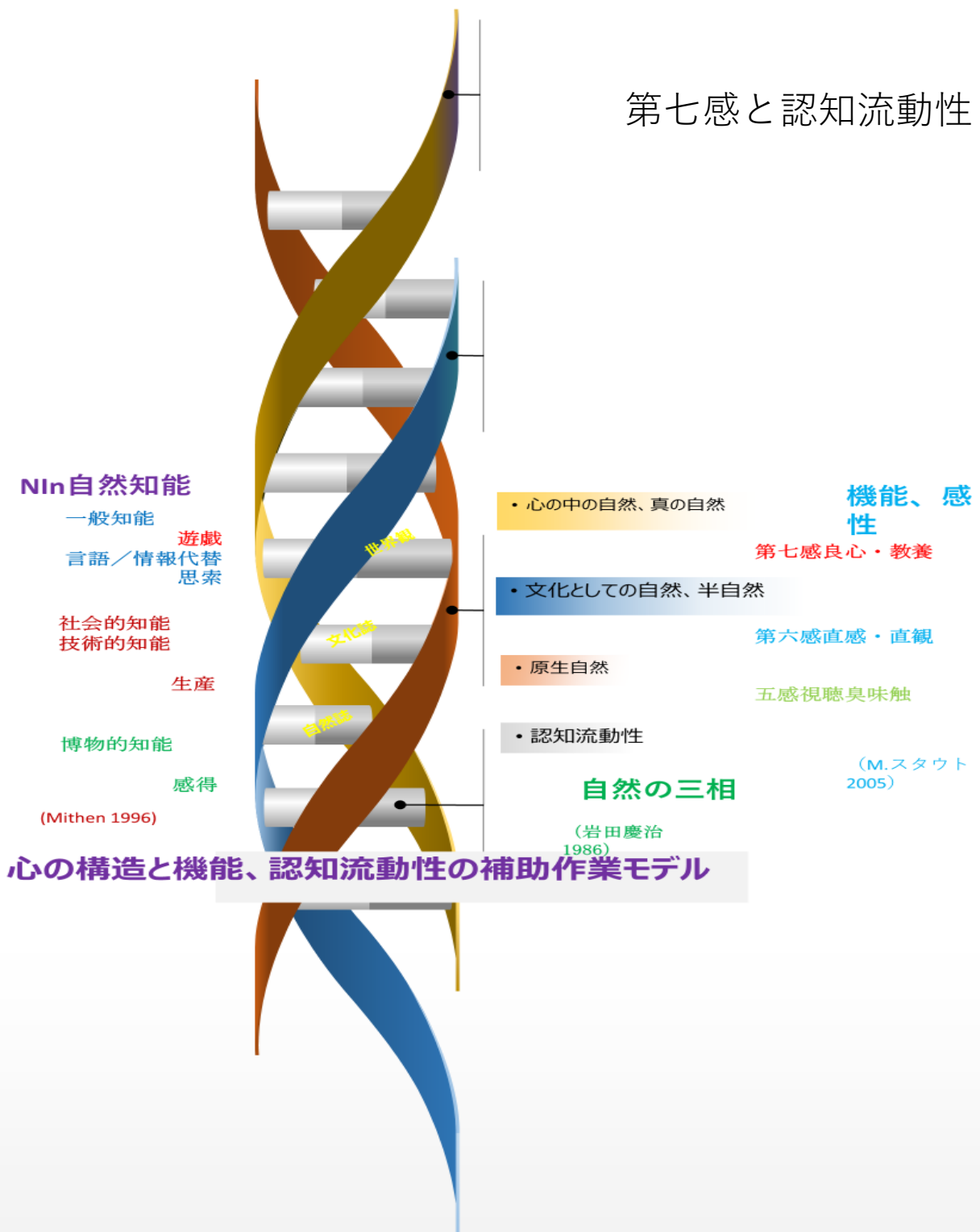
博物学的知能や技術的知能は都市生活で縮小する

社会的知能もコミュニティが希薄化して、衰微する

一般知能は認知流動性を弱める

心の構造と機能

第七感と認知流動性



* Stout, M. (2005) The Sociopath Next Door – The Ruthless versus the Rest of Us, MJF Books, NY, USA.